



文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)
2025年度 第7回～8回公開研修会

新しい日本語教師教育者研修のあり方をめぐって
—実践と理論の往還—

ごあいさつ

近畿圏で日本語教員養成に関わる大学や、日本語学校、行政機関等、34機関が加盟する「[文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業近畿ブロック](#)」(拠点校:神戸大学)では、2024年度より、「登録日本語教員」時代を見据えた公開研修会を継続的に実施しています。

2025年度の第7回～第8回公開研修会では、地域の日本語学校における教師研修の実践に関するご報告と、砂川裕一先生によるご講演を予定しています。2つのイベントは連続して開催いたしますが、興味ある部分だけを聴講いただくことも可能です。実践と理論の両面から日本語教師教育者研究ならびに日本語教師研修の在り方を考える一日になればと思っております。

年の瀬で、ご多用中の時期とは存じますが、日本語教師・教師教育者の皆さま、日本語教師を目指しておられる皆さま、小中高の先生がた、行政の皆さま、地域の皆さまはじめ、この問題に関心をお持ちの多くの方々のご参加をお待ちしております。

記

日時 2025年12月20日(土) 13:00～15:30

会場 大阪 ヒルトンプラザウェストオフィスタワー8階会議室

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目2番2号(TEL:06-6341-3334)

参加費 無料(要事前申し込み、先着順) <https://forms.gle/PrE3PATsDhWtBaoi6>

問合せ先 拠点事業責任者 石川慎一郎(神戸大) iskwshin@gmail.com



プログラム

13:00-14:00 第7回公開研修会

テーマ: 「段階的・体系的な教員研修を考える」(研修部会企画)

○部会報告「研修部会における取組の概要」

林良子先生(神戸大学教授)

○実践報告1「コミュニカ学院における教師研修の現状と課題」

竹田 悦子先生(コミュニカ学院顧問)

○実践報告2「南大阪国際語学学校における教師研修の現状と課題」

柳本 真未先生(南大阪国際語学学校教務主任)

14:10-15:10 第8回公開研修会

テーマ: 「日本語教師の視野の拡充を考える」

○講演「日本語教師の視野の拡充のために～日本事情教育の視界・領界の広がりを踏まえて～」

砂川 裕一先生(群馬大学名誉教授)

講師紹介と講演の概要

第7回公開研修会



講師：竹田 悦子(たけだ えつこ)氏

1990年よりコミュニカ学院勤務。カリキュラム改訂や『読む力』シリーズの出版に関わる。『「日本語教育の参照枠」活用のための手引き』協力者として留学分野の事例を執筆。『「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発・普及事業〈留学〉』に参加。日本語教育学会社会啓発委員会委員。現在、コミュニカ学院顧問

概要

コミュニカ学院の理念や特徴に触れたうえで、新任・中堅・ベテラン対象に行っている研修の目的と概要をお話します。そして、学内外の研修参加のほか、クルー・ミーティングでの実践振り返り、各種プロジェクトへのLPP型研修、「研修」を唱えない日々の研修など、「成長し続ける教師」として実践の改善を図る工夫について話題提供できればと思います。



講師：柳本 真未(やなぎもと まみ)氏

2003年よりキルギスタン、ヤクーツクの大学で専任教員としての勤務を経て帰国。子育ての傍ら日本語学校で非常勤講師として勤務し、2019年4月より、南大阪国際語学学校で非常勤として勤務を開始、専任教師を経て、2023年9月より教務主任。

概要

本校は、「明日の自分を創る日本語教育」を理念として掲げ教育活動を行っております。日々、学生に自らを知り、考え、選び、実行できる力を育成するため、教員自身の学びはどのようになっているのか、本校で行われている研修を紹介しながら、本校が目指す研修と今の現状から見える課題などお話しできればと思います。

第8回公開研修会



講師:砂川 裕一(すなかわ ゆういち)氏

国際基督教大学(ICU)教養学部理学科卒業/同大学大学院比較文化研究科博士前期課程修了/2014年群馬大学社会情報学部退職(群馬大学名誉教授)。元国立大学日本語教育研究協議会(現大学日本語教育研究協議会)代表理事/元国際交流基金日本語国際センター所長。2020年度文化庁長官表彰受彰。現在は、隠居生活の傍ら、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所外部評価委員会委員、公益社団法人日本語教育学会や文部科学省のいくつかの事業に関わる委員会委員や地域日本語教育アドバイザーなどを勤めています。【興味のある分野】「専門分野は?」と問われるのが苦手です。学部時代は物理学、大学院時代は比較文化基礎論(と自称)、その後興味を持ち続けている領域は、哲学、日本語日本事情教育論など。

概要

昔、「日本事情教育」について、実態調査の結果を踏まえ、解釈的再構成を試みつつ、理論的な外挿もあえて試みつつ論点を整理したことがあります。その全体的な様相の中核的な観点は「日本語教育」ないしは「日本語日本事情教育」の領界の拡大に帰結しました。それは同時に、日本語教師の視野の拡充を不可避免的に求めるものでもありました。本日は、そのような話をしたいと思います。